

高齢者 ER レジデントマニュアル

増井伸高 ● 著

〔評者〕 関口健二 (信州大病院特任教授・総合診療科長)

良質な研修病院で研修を行うことのメリットは何でしょう。僕が米国臨床留学で感じたそのメリットとは、「十分な知識や経験がなくても、その施設でルーチンとなっている診療がスタンダードな診療であるため、それらを体で覚ええられること」でした。

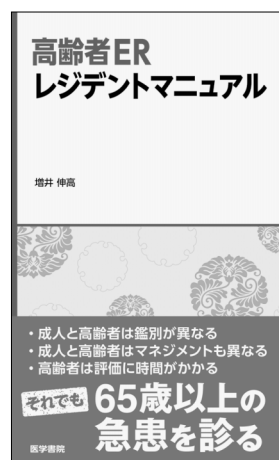
僕が20年前に経験した初期研修では、必ずしもスタンダードな診療がルーチンになっているとは言いがたく、バイブルとしたのは『ワシントンマニュアル』でした。ボロボロになるまで使い続けたワシマニに何度救われたことか。20年を経た今、良質なマニュアルが数多く出版されるようになって、研修医にとってはどこでもスタンダードな診療がやりやすい状況になったと言えると思います。

しかし、高齢者診療はどうでしょう。高齢者は複雑で非典型的で、おまけに予後が悪い。フレイルな高齢者であればなおさらです。しかし「複雑であるがゆえに予後が見えにくい」と言うこともできます。「予後が見えにくいので、スタンダードな診療が提供されていなくても気付かれにくい」という側面があるのです。でも、多くの医療者は気付いているはずです。「もう少し何とかできたんじゃないか」と。

人類の歴史上、未曾有の超高齢社会を現在進行形で経験している日本において、高齢者救急診療をスタンダードなものにすることは喫緊の課題であることに疑いはありませんが、それを教えてくれる指導医はどこにでもいるわけではありません。その若き医師たちの違和感、不全感を払拭するために登場したのがこのマニュアルです。

老年医学のトレーニングにはそのための時間と環境が必要です。そのどちらも「すぐに手にすることのできない」若き医師には、明日からできる行動変容こそが必要です。「十分な知識や経験がなくても、スタンダードな診療を、まずは体で覚える」ことが必要なのです。そのためのこの一冊。時間に制限のあるERセッティングで、「PART 1にぎつと目を通してながらこのマニュアルに沿ってアプローチする、そしてPART 3に目を通して入院/帰宅へとつなげる」を繰り返してみてください。いつの間にかスタンダードな高齢者救急診療を体で覚えていく自分に気付くはずですよ。

救急に出る初期研修医、夜間自分が一番上になる専攻医、救急で指導に当たる指導医の先生方、このコンパクトな一冊をポケットに入れてからERに向かうべし！



明日からの高齢者救急診療が楽し
みになることでしょ！

B6変型・298頁

2020年4月

定価：本体3,600円＋税

[ISBN978-4-260-04182-9]

医学書院刊